

第1回 土橋自然観察教育林 連絡協議会 議事録

開催日時：平成28年4月26日（火）19：00～20：30

開催場所：厚沢部町図書館視聴覚室

出席者：三上光憲（教育委員会主幹）、青柳秀和（社会教育係）、水本絵夢（教育林コーディネーター）、協議会員3名

議事要点

- ・平成27年度土橋自然観察教育林関係事業報告について承認。
- ・平成28年度土橋自然観察教育林関係事業計画について承認。

協議事項1 平成27年度土橋自然観察教育林関係事業報告

◎教育林講座開催事業について

会員 A：ハンターの人たちの感想はあったか。

水本：アンケートの答えではなかったが、色々な人と話す機会になってよかったという感想はあった。

会員 A：農林課関係の熊対策の講演という意味では、農家の人がいなかったような気がするが。

水本：時期が三月の末頃で、忙しくなり始める時期のため、もしかしたらあまり来られないのではと思っていた。（雪どけ前の時期に設定した方がよかったかもしれない。）

会員 A：農家の人たちが参加するなら、三月末頃までだと思う。四月に入ると忙しいので。

会員 B：二・三年間のヒグマの出没した場所などの記録は聞けば教えてもらえるものなのか。

水本：農林課の方で記録しているので、問い合わせれば可能だと思う。

会員 B：そういう情報を予備知識として知っておくことは、山に入る上で重要だと思う。富里でヒグマが路上に出た時も、地元の人たちは困っていた。どこにでも現れるという認識を持っておかないと、いつまでも生ごみを畑に入れないといった、ヒグマに対する意識を町民が持つ事に繋がらないと思う。私も太鼓山に入る時はヒグマ対策で鈴を付けたり大声を出したりしているが、そういう基本的な事をはじめ町民の意識の向上は必要だと思う。毎年回ってくるヒグマの注意喚起の回覧では情報に新鮮さがなく、町民が慣れてしまうので、具体的に数年を通してのヒグマの出没情報を出した方が効き目があるんじゃないか。

会員 A：去年自分の畑で見つけて、近所の人に聞いた時にヒグマが出ている事を初めて知った。あらかじめ聞いていたらもっと防御ができたと思う。

会員 B：回覧でどこの誰の所でヒグマが出たともう少し具体的な情報があるといいと思う。

会員 A：一週間前に出たから注意しなさいという看板があっても、もうそこにはヒグマはいないという事もある。せめてその日のうちにネットに情報を出すとかしたらいいと思う。近所でバスとヒグマがぶつかった事故も翌日に全道ニュースで知った。駐在さんからの報告などもなかった。

会員 B：皆さん生ごみをよく河川敷の所に埋めたりしている。キツネなどがよく出ているが、生き物が人里に出ていると言う事はエサがそこにあると分かっていると言う事で、その認識も気を付けなければならない。ヒグマだったら大変な事になる。そういう事を回覧板で呼び掛けてもらえたらいい。

会員 A：農林課に荒木さんが入ったが、回覧などで彼に最新のヒグマの出没情報を出して

もらってはどうか。

水本：荒木さんに相談してみる。

会員 C：勉強会のあと、釣賀さんが幼児や小学生にもヒグマのお話をしたいと言われていた。教育委員会が管理する教育林でできる事という意味で考えた時に、子供のうちからヒグマへの対処の仕方を教えて行くのも大事だと思った。勉強会ではヒグマの毛皮などを持ってきていただいたり、ヒグマの対処法を教えてもらってわかりやすかったし、子どものうちから刷りこんでおくとゆくゆく意味をなしていくかなと思う。

会員 A：ハンターさんたちも事故の話にはすごく興味を持っていた。

協議事項 2 平成28年度土橋自然観察教育林関係事業計画

◎木育イベント開催事業について

会員 B：主催はどこになるのか。

水本：教育委員会が主催で行った。

◎遊歩道の修繕事業について

会員 A：去年と同程度の工事量になるのか。

水本：だいたい同じような修繕になる。

会員 A：毎年少しずつ修理していくような感じなのか。土台の取り換えなどはしなくても大丈夫なのか。

水本：土台も手すりなどと同じように破損した部分を修繕していくという形で行っており、全体を一気に取り換えるというような予定は今のところはない。

会員 A：何年か前の協議会でも出たが、もう少しシンプルな構造でもいいのではという意見が出た。尾瀬のように土台と土台の間に材を渡すだけで、木橋自体はすれ違える程度の幅で、ところどころにすれ違える広い所を作っているような作り。最近ではだんだん水面が下がっているようなので、そんなに立派な作り橋ではなくてもいいと思う。

会員 B：小沼の所は乾燥化しているか。

水本：土砂が堆積してやや乾燥化しているとは思う。

会員 B：先日小沼のところへ行ったが、現状だと橋げた式の建造物はいらないと思う。過去になぜ橋げた式にしたかと言うのもっと水が流れていたからだと思うので。

会員 A：乾燥によってミズバショウやザゼンソウは減っているのか。

水本：数的には減ってはいないと思う。

会員 B：雪どけが早かったので今年は水が少ないように感じたのかもしれない。

水本：橋は湿地でも歩きやすくする以外に、その場所以外には踏み入れないようにするという意味でまだ有用性はあると考えている。

会員 B：木橋のつくりとして、別の場所でイカダのように組み立て、現地に行って置く程度だと簡単だと思う。設置時の環境へのダメージも少ないし、壊れた時もそこだけ取り替える事もできるので補修が容易だと思う。現在は全体的に痛んできているが、こまめに修繕していけば全体的に壊れるという事を後伸ばしにできるので、もう少しこまめな修理をしてほしい。一気に直すと一気に壊れるので。散策路上の橋げたの部分も木材が抜けているところもあって危ないので、その都度こまめに修繕した方がいい。

会員 A：他の場所でも同じように修繕の仕方の問題を抱えている部分があると思うが情報はないか。

水本：調べてみる。

会員 B：見本林の端にあるヒバの記念植樹域だが、その間伐で出たヒバを使って修繕に使ってもいいと思う。

水本：そういった用途も含めて今年、記念植樹域のヒバの事に関しては計画立てて決めていきたい。

会員 A：見本林の他の外国産の樹木もだいぶこんでいるところがあるので、利用すればいいと思う。

◎ヒノキアスナロ植栽地整備事業

会員 A：環境調査では具体的に見てわかるような図面をつくるのか。

水本：林況把握が主な目的だが、図面をつくる事はできる。

会員 A：三年くらいこの事業をやっているが、自分たちが議論をするときに現地でなくても理解できるような資料が欲しい。例えば一部伐採すると将来的にどのようなようになるかを推測したりできるような図面がないと意味がないので。今年末の協議会で全部見ながら出来たらいい計画ができたらいと思う。樹木見本林に関する勉強会で講師を呼ぶ予定なので、年末の協議会に向けての勉強会になるようにしたらいいと思う。講師の方にもそのような事を理解していただいて、お話をしていただけたらいいと思う。

会員 A：調査地になっている所は保安林に指定されている所だが、人工林で保安林というのがしっくりこない。以前は土砂流出防止の為に広葉樹化計画を立てていたが流れてしまっている。調査をするのはいいが、全体的な意味付けを考えてから行った方がいい。もとは林業的な意味でなく、どう教育林として生かすかという方向でやってきたので不本意である。12月の協議には調査結果だけでなく保安林との絡み合いも含めて議論したい。広葉樹化をやめて林業に向けて調査をしているというのはおかしいと思う。今年度は調査のデータと、森林法の規定も勉強しつつ合意を作ればいいなと思っている。その辺りの森林整備は、流域である道の駅なども関わってくるのだと思うので。

水本：人工林環境調査と名がついているのでそのような印象を受けたのだと思うが、現地が人工林ベースの環境になっているので事業名がそうなっているだけであり、人工林化のための調査ではない。以前の勉強会では広葉樹化もいいと思うが、そのヒバ林に関してはすぐに何か影響が出るわけではないので、ゆっくり考えてほしいというような結論であった。現状では情報が少ないので、まず林況調査で情報を集めようとしている段階。こちらとしては人工林として育てようという意図はない。

会員 A：調査するのであれば、土砂流出量の調査も同時にやってもいいのではないかな。現状が危機的なのかも目に見えてわかると思う。また危機的な状況でなければ、ヒバの試験場として提供するという方向もある。まずは現状土砂の流出量がどうなっているのか、危機的な状況なのかどうか調べねばならないと思う。

会員 B：小沼の所は砂防ダムを兼ねている部分があるので、このまま土砂が堆積したときに一気に水が流れた場合は危険だと思う。常に身近な自然をみておくことが最大の自己防衛になると思う。

会員 A：常に危機感を持っておくことは大事。できれば子どもも入れて学習しながら自然を観察し考えられるといい。

会員 B：記録やデータ、目視、そして体で感じる事は必要だと思う。

会員 A：土砂流出に関しても、これまでの整備事業で外部の業者がいっぱい調査しているので、それを引き継いで調査をし続けられればいいのでは。あと小沼の水の状態、植物の変化など。

その他 懸案事項等自由討議

◎トドマツ特別母樹林について

会員 A：今年度の計画にはないが、トドマツ特別母樹林のマーキングの復元は事業として行わないのか。

水本：問合せしたところ、トドマツ特別母樹林の台帳と位置図の写しを農林水産省よりいただいた。事業計画にはないが位置図だけではわかりにくいので、現地にてGPSで位置を落とし、データ化して管理していこうと思っている。

会員 A：台帳の写しに昭和62年に31本伐採とあるが、理由はわかるのか。

水本：昭和62年の伐採の理由は不明だが、その後も母樹林の成長不良木や枯死木を伐採した経歴があるので、当時も同じ様な理由で伐採があったかもしれない。

会員 A：伐採の記録は残っているか。

水本：昭和62年のものはないが、より新しいほうの伐採を記録した台帳は管理している。

会員 A：これには精鋭樹は載っていないのか。

水本：これには載っていないが別に記載されている資料はある。現地での位置の特定はまだできていない。

会員 A：精鋭樹の位置も特定できれば、林野庁がどんな目的で選んだかなど学習素材になると思う。

◎教育林の利活用について

会員 B：遊具があった所はキャンプ場になっているのか。

水本：キャンプでの利用や子どもたちの遊び場として利用されている。

会員 B：もうバンガローの予約は入っているのか。

水本：ゴールデンウィークはもうかなり予約が入っている状態。

会員 B：新幹線が開通した影響もある？

水本：それもあるかもしれないが、いつも予約している人たちが多いように思う。

会員 C：常連になっている人もいる？

水本：価格も安いので他の観光地への中継地に使っている人も多く、そういう人たちが何度も利用しているように思う。

会員 A：4月29日道新の記事で、道の駅で展望台までの階段を直して遊歩道を整備したいと書いてあった。下の噴水の所なら問題はないが、上の方だと教育林への迷い込みを防ぐために現在は通行不可にした道があるので、再整備する時はその事も考えてほしいと思った。

会員 B：その道は道の駅の公園から教育林に入る人は、森に入る心構えができていないので迷いやすいのではという危険性から閉じた。

会員 A：営林署跡地のその後の利用方法は決まったか。

水本：まだ決まっていない。